

課題整理総括表・評価表の 活用について



介護支援専門員の課題

- 介護支援専門員は、要介護者等の心身の状態や置かれている環境、要介護者等本人やその家族などの希望を勘案してケアプランを作成し、医療・介護等のサービスを提供する事業者によって必要なサービスが円滑に提供されるよう、連絡・調整する役割が求められています。今後、さらに高齢者のみ世帯や一人暮らし高齢者数の増加が進み、地域全体で支援を必要とする高齢者を支える必要性も高まる中、これまでに増して、介護支援専門員の資質やケアマネジメントの質の向上に対する期待も大きくなっています。
- そうした中、平成25年1月に「介護支援専門員の資質向上と今後のあり方に関する検討会」において中間整理がとりまとめられ「適切なアセスメント(課題把握)が必ずしも十分ではない」、「サービス担当者会議における他職種協働が十分機能していない」、「ケアマネジメントにおけるモニタリング、評価が必ずしも十分ではない」といった課題が指摘されたところです。

(平成26年6月17日付 介護保険最新情報 事務連絡)

課題解決の方法として

- ①利用者の状態等を把握し、情報の整理・分析等を通じて課題を導き出す過程について、多職種協働の場面等で説明する際に適切な情報共有に資することを目的とした「**課題整理総括表**」
- ②ケアプランに位置付けたサービスについて、短期目標に対する達成度合いを評価することで、より効果的なケアプランの見直しに資することを目的とした「**評価表**」

1. 課題整理総括表および評価表の 趣旨・目的

(1)課題整理総括表及び評価表の趣旨

○介護支援専門員の役割と課題

要介護者がその有する能力に応じて、自立した日常生活を送ることができるよう支援する専門職。必要なサービスが円滑に提供されるよう、**連絡・調整する役割が求められている。**

住み慣れた地域で高齢者ができる限り自分らしい暮らしを続けることができるような・・・、個々のサービスの連絡・調整だけでなく、「**必要だが地域には無いサービス**」を創出していく取り組みも期待されている

しかしながら・・・介護支援専門員がどのように考えて課題を抽出したのかの経緯が文字化されていないために他の職種からは分かりにくいこと、**課題把握等のプロセスには経験に基づく学習を要する一方で業務経験年数の短い介護支援専門員も多いことといった要因**があると考えられる。

介護支援専門員には、専門職としての専門性を確立するとともに、これまで以上

にさまざまな関係者に対して、要介護者等の課題を把握した経緯を分かりやすく説明することが期待される。

○課題整理総括表の策定の背景と趣旨

介護支援専門員が把握した要介護者等の基本的な情報を多職種で共有するとともに、専門職である介護支援専門員としてどのような考えで要介護者等の「生活全般の解決すべき課題（ニーズ）」を導き出したのかを表現することにある。

- ・課題整理総括表の「見通し」欄を整理することをきっかけに多職種間の連携やOJTにおける助言・指導等を実施しやすくすることが狙いのひとつ。

- ・現在の居宅サービス計画の様式は、アセスメントの結果から課題を導き出すような形式となっていない。

- ・利用者の状態等を把握し、情報の整理・分析を通じて課題を導き出す過程について、多職種協働の場面等で説明する際のひとつの様式例として策定したもの

○評価表策定の背景と趣旨

利用者のニーズに対応するためにケアプランに掲げた短期目標に着目し、設定した期間の終了時期における目標の達成度合いを表現するもの

短期目標の終了時期に、サービスを提供する関係者間で、目標の達成度合いとその背景(想定よりうまくいった要因、達成できなかった要因、新たに把握された生活上の課題等)を分析・共有することで再アセスメントが有効なものとなることを企図している

(2) 課題整理総括表及び評価表の活用における留意点

○課題整理総括表の活用における留意点

・第2表の「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)」を導き出す際に各アセスメントツールを活用して整理・抽出した利用者の現状や有する能力を勘案しつつ、自立した日常生活を支援していくにあたってのその解決すべき課題を抽出するまでの間に、**専門職としてどのような考えで課題分析を行ったのかを明らかにすることが目的**

・利用者の生活全般の解決すべき課題(ニーズ)を導くにあたり、利用者等がどのような生活をしたい、あるいは、できるようになりたいと望んでいるかなど、**意向を引きだしつつ専門職として客観的に判断することが重要**

○評価表の活用における留意点

- ・利用者等の意向を踏まえつつ、生活全般の解決すべき課題（ニーズ）を解決するため、介護支援専門員がケアプランに掲げた短期目標を達成するために位置付けたサービスについて、**短期目標の達成状況を確認するもの**
- ・**介護支援専門員が一人で評価するのではなく、サービスの担当者等とともに情報共有しながら評価することにより、多職種協働によるチームケアを効果的なものとしていくためのツールとして活用することが重要**

(3)課題整理総括表及び評価表の主な活用場面等

○課題整理総括表の活用場面等

- ・介護支援専門員の研修
- ・サービス担当者会議や地域ケア会議
- ・経験の浅い介護支援専門員への主任介護支援専門員等から受けるOJT

・自己点検

○評価表の活用場面等

- ・研修
- ・ケアプランを見直す際のサービス担当者会議や地域ケア会議
- ・モニタリング後のサービス担当者間で共有する際

2. 課題整理総括表の様式と記載要領

(1)本様式の活用の基本的な考え方

①本様式の位置づけと作成のタイミング

・アセスメントツールではない

情報の収集と分析を行い、課題を抽出する上で、利用者の現在の状態と要介護状態の改善・維持等の可能性に照らして課題の捉え方に抜けや漏れがないかどうかをまとめる総括表

②本様式作成の基本姿勢

・専門職として

「介護支援専門員として、さまざまな情報の収集・分析の結果、このような課題があると考えられる」という考えを整理して記載すること

・専門性を生かした課題分析の結果の整理

利用者・家族の思いや状況を踏まえて「専門職である介護支援専門員としてあなたのお話をこう捉えた」「今後、望む生活の実現に向けてこういった課題があると思うがどうか」と利用者・家族と対話をする。

様式を見ていただきながら記載要領を説明していきますので下記の資料のご準備をお願いします。

揃いましたら動画視聴をお願いします

平成26年6月17日付 介護保険最新情報
Vol.379

利用者名 _____ 殿

作成日 _____ / _____ / _____

※1 本書は経験者であり、必ずしもツールは万能ではないため、必ず事前に詳細な情報収集・分析を行うこと。なお「状況の事実」の各項目は課題分析標準項目に準拠しているが、必要に応じて追加して差し支えない。
※2 介護支援専門員が収集した主観的な情報を記載する。選択肢「印」を記入。
※3 現在の状況が「自立している」「支援し足りない」「悪化している」場合にも、そのような状況をもたらしている要因を、様上（上部）の要因欄から選択し、該当する番号（丸数字）を記入する（複数の番号を記入可）。
※4 今の認定有効期間における状況の改善・維持・悪化の可能性について、介護支援専門員の判断として選択肢「印」を記入。

14 

自立した日常生活の
阻害要因
(心身の状態、環境等)

課題整理総括表

⑥「状況の事実」欄の「現在」あるいは「改善／維持の可能性」に関して補足すべき情報を記入する

利用者及び家族の
生活に対する意向

⑧訪問や利用者・家族との面談を通じて把握した利用者及び家族が望む生活の意向のうち、課題を抽出する上で重要と思われる情報を整理して簡記する

状況の事実 ※1		現在 ※2		要因※3	改善/維持の可能性※4	備考(状況・支援内容等)
移動	室内移動	自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	②事前に利用者宅訪問や面談、関係者や他の専門職からの申し送り等で把握した情報(事実)に基づき、日常的にしているかどうかを判断して記載する
	屋外移動	自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
食事	食事内容		支障なし 支障あり			見守り: 見守りや声かけを受けるが一連の動作のほぼ全てを支障なく実施している 一部介助: 一連の動作の一部について介助を受けて行為を実施している 全介助: 一連の動作のすべてあるいはほぼ全てについて介助を受けて行為を実施している。
	食事摂取	自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
	調理	自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
排泄	排尿・排便		支障なし 支障あり		改善 維持 悪化	
	排泄動作	自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
口腔	口腔衛生		支障なし 支障あり		改善 維持 悪化	
	口腔ケア	自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
服薬		自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	④「状況の事実」の「現在」欄で、「自立」あるいは「支障なし」以外を選択した項目について、その要因として考えられるものを、「自立した日常生活の阻害要因」欄から、選択し、その記載した番号を記入する複数の要因が考えられる場合は、複数の番号を記載して良い
入浴		自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
更衣		自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
掃除		自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
洗濯		自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
整理・物品の管理		自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
金銭管理		自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
買物		自立	見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
コミュニケーション能力			支障なし 支障あり		改善 維持 悪化	
認知			支障なし 支障あり		改善 維持 悪化	
社会との関わり			支障なし 支障あり		改善 維持 悪化	⑤「状況の事実」の「現在」欄では「支障なし」以外を選択した際の認定有効期間を見通して、必保険サービスだけではなく、イン援も含む)を利用した場合に「改善/維持する可能性の有無を検討」し「悪化」のいずれかに○印を
褥瘡・皮膚の問題			支障なし 支障あり		改善 維持 悪化	
行動・心理症状(BPSD)			支障なし 支障あり		改善 維持 悪化	
介護力(家族関係含む)			支障なし 支障あり		改善 維持 悪化	
居住環境			支障なし 支障あり		改善 維持 悪化	
					改善 維持 悪化	

②事前に利用者宅訪問や面談、関係者や他の専門職からの申し送り等で把握した情報（事実）に基づき、日常的にしているかどうかを判断して記載する

見守り：
見守りや声かけを受けるが一連の動作のほぼ全てを支障なく実施している

一部介助：
一連の動作の一部について介助を受けて行為を実施している

全介助：
一連の動作のすべてあるいはほぼ全てについて介助を受けて行為を実施している。

④「状況の事実」の「現在」欄で、「自立」あるいは「支障なし」以外を選択した項目について、その要因として考えられるものを、「自立した日常生活の阻害要因」欄から、選択し、その記載した番号を記入する複数の要因が考えられる場合は、複数の番号を記載して良い。

⑤「状況の事実」の「現在」欄で「自立」あるいは「支障なし」以外を選択した項目について現在の認定有効期間を見通して、必要な援助（介護保険サービスだけでなく、インフォーマルな支援も含む）を利用した場合に「現在」の状況が改善／維持する可能性の有無を検討し「改善」「維持」「悪化」のいずれかに○印を記入する

見通し※5

生活全般の解決すべき課題
（ニーズ）【案】

 $\times 6$

⑨「見通し」欄の記入内容を踏まえて記入。「利用者が望む生活」が捉えられていることが前提

⑦ 利用者の自立した日常生活を妨げている要因」の解決に向けて、多職種からのアドバイスを受けて、当該ケアプランの短期目標の期間を見据えて、「どのような援助を実施することにより」（要因の解決のために必要と考えられる援助内容）、「状況がどのように変化するのかが見込まれるか」（援助を利用した場合に到達が見込まれる状態）を記入する

⑩課題の優先順位を踏まえて、数字を記入。利用者とすり合わせた結果、当該期間のケアプランに反映できなかった課題については「－」印を記入する。

※6 本計画期間における優先順位を数字で記入。ただし、解決が必要だが本計画期間に取り上げることが困難な課題には「－」印を記入。

課題整理総括表は活用できそうですか

- 現在、研修などで事例の資料の一部としてほぼ必須に近い状態で使われていますが、いままで十分な説明の機会がないため、主旨通りに書き込みができているのは少ないように見受けられます。
- 説明がないままで、提出資料に含まれるのは酷ですが、使ってみると(慣れてくると)、意外に活用できそうだと思う方も少なくありません。
- 自分が行ってきたアセスメントからケアプラン原案作成までの軌跡を文字化し共有すると、他者からの確認やアドバイスを得られると、「課題整理総括表」は介護支援専門員を後方支援してくれているように思います。

今回の動画により
学び、体験することで、さまざまな様式が
活用できるきっかけになったら嬉しいです

長時間のご視聴ありがとうございました

